

2023.01.18

# 鳥取工業高校で出前講座を開催しました

## 鳥取県立鳥取工業高等学校 出前講座

- 講座名 インフラの維持管理
- 目的 橋梁点検の実習を通じて、建設業への関心を高める
- 日時 令和5年1月18日(水)11:00~11:50
- 対象者 鳥取工業高校 建設工学科 3年生 21人
- 場所 講義 県立鳥取工業高校 教室  
実習 県立鳥取工業高校 校内鉄筋コンクリート建物
- 主催 鳥取県建設分野担い手確保・育成連携協議会(事務局:公益財団法人鳥取県建設技術センター)
- 計画・実施 鳥取県コンクリート診断士会
- その他 生徒にクラックスケールをプレゼント(鳥取県コンクリート診断士会より)

### 日 程 表

実習科目	時間	講師
○講義 ・インフラ維持管理の基礎 ・橋梁点検実習の説明	11:00~11:20	鳥取県コンクリート診断士会 (アサヒコンサルタント株式会社)
・橋梁点検の最新技術の紹介	11:20~11:25	鳥取県 県土整備部 技術企画課
(実習場所へ移動)		
○体験実習(3班体制) ①コンクリート調査(1) ・RCLレーダーによる鉄筋探査	11:30~11:50 (各7分程度)	①鳥取県コンクリート診断士会 (アサヒコンサルタント株式会社)
②コンクリート調査(2) ・シュミットハンマーによるコンクリート強度推定		②鳥取県コンクリート診断士会 (アサヒコンサルタント株式会社)
③コンクリート調査(3) ・コンクリートの打音調査 ・クラックスケールによるひび割れ幅測定		③鳥取県コンクリート診断士会 (アサヒコンサルタント株式会社)
(現地解散)		

## 実習状況



木山講師による講義  
(橋梁点検の最新技術の紹介)



コンクリート調査  
(シュミットハンマーによるコンクリート強度推定)



コンクリート調査  
(RCLレーダーによる鉄筋探査)



コンクリート調査  
(打音調査)



コンクリート調査  
(クラックスケールによるひび割れ幅測定)

Weekly Guide

- 1月20日(金)
  - ◆ 県議会各常任委員会(午前10時)
  - ◆ 大山町議会臨時会(午前10時)
  - ◆ 浄化槽トップセミナー鳥取(とりぎん文化会館 午後1時30分)
  - ◆ 智頭建設業協会総会・新年祝賀会(智頭町・塩田屋 午後4時30分)
- 1月21日(土)
- 1月22日(日)
- 1月23日(月)
  - ◆ 米子市県政要望会(米子市役所 午前10時)
- 1月24日(火)
- 1月25日(水)
- 1月26日(木)



歩道を設置する門田橋(湯梨浜町門田)

門田橋上部工25日公告  
長和田羽合線歩道設置

中部総合事務所

県中部総合事務所は、県道長和田羽合線に歩道の設置を進めており、2

021年から工事着手した門田橋の上部工を県内PCを対象に25日公告する。県道長和田羽合線は、19年4月に開校した湯梨浜町立湯梨浜中学校の通学路。同区間では歩道が設置されておらず、通学時の事故の発生が懸念されていた。これを受け19年度から事業着手し、通学路の安全性を高めている。これまでに、延長800mの門田橋と長江区間の歩道整備は完了し、延長650mの門田橋区間の埋見川に架設している門田橋(橋長21・3m)の歩道設置(歩道幅員2・0m)を進めている。発注予定の工事は、門田橋(プレテンション方式)PC中空床版橋の橋梁上部工で、概算工事費は2000万円を見込んでいる。

境港市県政要望

BP整備など重点項目に  
高規格道路の動向も注視

自民党派支部連合会が開かれた。県・市政の関主権する境港市の「県政に係者29人が一堂に会し、に要望する会」が16日、境港市市民交流センターで全施設要望6項目について協議した。



市道境132号線交差点では信号機の設置を要望

建設関連の要望事項から、灘英樹境港市建設部長は①米子ー境港間高規格幹線道路整備事業②県道渡余子停車場線バイパス整備事業③市道境132号線(交通安全施設要望)の3件を重点項目に挙げた。

①についてはこれまで、中国横断自動車道岡山米子線のうち米子ICと米子北IC間の事業凍結解除、米子ICと境港間の事業化に向けた計画段階評価の早期着手を柱に、国土交通省への精力的な要望を続けてきた。中海・宍道湖・大山圏域が一丸となった取り組みの結果、まずは国の新年度当初予算に計画段階評価へ向けた調査費が盛り込まれるかが焦点になりそうだ。

②の関連では交通渋滞の緩和策として、渡公民館前と大根島入口の交差点改良が進行中。一方で根本的な解決策も講じる必要がある、また米子ー境港間の議論が具体性を帯び始めた。地域交通ネットワークを構築する助得道路の観点からバイパス整備の重要性を訴えたい。

③は境港市清水町、臨港道路外江1号連絡線交差点に信号機の設置を求める内容。19年5月に商業施設がオープンして以降、交通量・歩行者が増加しているため、横断歩道だけでは不十分と訴えた。県は「今後の交通状況を見ながら検討する」と回答している。

要望内容の一覧は後日掲載予定。

コンクリート調査を体験  
インフラ維持管理学ぶ  
鳥工生20人

建設分野担い手確保・育成連携協議会(事務局・県建設技術センター)は18日、鳥取市生山の県立鳥取工業高校でインフラ維持管理の出前講座を開いた。建設工学科3年生の生徒20人がコンクリートの点検作業を体験し、建設分野に関心を寄せた。



RCLレーダーを使って鉄筋の位置を確認する生徒

は「筐子トンネル(山梨県)の天井板崩落事故以来、インフラ維持管理の重要性は高まっている」として、コンクリート構造物の劣化メカニズムや事例を説明。また、県技術企画課の木山高志氏はロボットを用いた最先端の橋梁点検技術を紹介し、「従来の調査のやり方も技術者として必要な技術力。それに先端技術を組み合わせれば」と語りかけた。

その後、生徒は同校体育館のコンクリート壁面と向かい合い、クラックスケールを使ってひび割れ幅を調べたり、RCLレーダーによる鉄筋探査などを実践した。

ハンマーで打音検査した上田優さん(18)は「初めてで、音の聞き分けが難しかった」と話し、土木技術の奥深さを知った様子だった。